



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「神は……罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし—あなたがたの救われたのは恵みによるのです—キリスト・イエスによって共に復活させ、共に天の王座に着かせてくださいました」

聖書 (エフェソ書2章4～6節)

牧師 河合裕志

「あなたがたの救われたのは恵みによる」、これはパウロが大変に強調しているところ。16世紀のキリシタン時代の教理問答書に「ドチリナ・キリシタン」というのがあって次の言葉が見られる。「まずきりしたんになるる事は、いかなる人の業(しわざ)とか知れるや。でうすのがらさを以(もって)きりしたんになる也」(キリシタンになるためには、どのような人の行いが必要となるだろうか? デウスの恵みによってキリシタンになるのである)。

「がらさ」とはポルトガル語で「恵み」のこと。明智光秀の娘の玉子は細川忠興に嫁いだ後、洗礼を受けて「ガラシャ」の名を与えられた。人がきりしたんになる、キリスト信者になる、そのためには人のしわざ、行いによるのではない、ただでうす、神の恵みによるのだ、と問答書は教えた。

それはパウロに通じる。更に16世紀、宗教改革を起したマルティン・ルターにも関連するのでは? ルターは免罪符を購入したり善行を積むことではなく、神の送ってくれたキリストを信じる信仰によって救われる=罪の赦しを頂いて天国

に行ける、それは無償の神の恵みだとした。ザビエルはルターの宗教改革に刺激を受けた。その教えにも影響を受けたのでは?

さてパウロはここでもう一つ、こんなことを述べている。「神はわたしたちを天の王座に着かせてくださいました」。これは少し、あるいはかなり言い過ぎでは? 私たちは天の王座なんかに着いていない。以前として地上にありいろいろと苦労しながら生きている。それはいずれ天上の座に着かせてもらうことを願っている。そこはこの世の一切の苦悩から解放されたところ、愛と平和に満ちた楽園。そこに恵み深い父なる神とキリストがいまし、多くのなつかしい人々が満ちたりた日々を送っている。そんな天の座に私たちはあこがれる。

これはあくまでもあこがれ。それをパウロはすでに現実のものとして記すとはどういうことか。それはパウロのゆるぎない確信を言ったものだろう。それは100%保証されていると。今神の恵みによって救われている、これが確信になっている。私たちもどこまでも神の恵みを信じ歩んでいきたいもの。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時